

棚尾まちづくり事業

平成 24 年 5 月 23 日（水曜日）

## 第 1 1 回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行（小笠原幸雄）

### 1 前回までのテーマに関する参考意見など

- (1) 碧南市への移行に伴い棚尾町を閉じる式典における名倉諭町長の祭文（1 ページ）
- (2) 俳句における、高浜虚子の來棚に関する再評価

### 2 テーマ 20 「秋葉山常夜灯」

- (1) 説明（磯貝国雄） 2 ～ 6 ページ
- (2) 出席者による補足説明、感想など

### 3 テーマ 21 「棚尾村道路元標」

- (1) 説明（磯貝国雄） 7 ～ 9 ページ
- (2) 出席者による補足説明、感想など

### 4 連絡事項・情報交換など

### 5 次回日程

第 12 回 6 月 20 日（水曜日）午後 7 時から

「折戸の坂」「棚尾村字東浦の分村」

第 13 回 7 月 25 日（水曜日）午後 7 時から

「北棚尾村の分村」「光照寺弁天池の伝説」

## 「秋葉山常夜灯」

### 1 要旨

村の火災防止と安全を祈願して街道に建てられた大きな秋葉山常夜灯が、妙福寺入り口にある。岡崎の石工太田藤右衛門淑彦による嘉永元年（1848）の作品で、矢作川下流域に残っている秋葉山常夜灯の中では最大規模である。

明治時代の記録では、八柱神社の秋葉社を「南秋葉社」「宮地秋葉社」と呼び、妙福寺のものを「北秋葉社」「妙福寺秋葉社」と呼んでいた。

### 2 常夜灯の製作

（出典：定本矢作川 2003年（榊郷土出版社）

「岡崎石工」

岡崎の伝統産業として全国的にも知られる石製品工業は江戸時代以来のもので、産業繁栄には矢作川が大きく関係している。「三河みやげ」安政4年（1857）には、6尺の春日型燈籠を舟場まで持ち出し、岡崎から平坂湊までの川舟運賃が5匁5分、江戸鉄砲洲河岸までの海上運賃が3匁と記されているように、矢作川経由で岡崎から石製品が運ばれていた。矢作川下流域、三河湾沿岸部に点在する岡崎石工銘の石造物も、矢作川ルートでの石材・石製品運搬を推測させる。

※秋葉山常夜灯 碧南市志貴町妙福寺前 岡崎石工太田藤右衛門淑彦による嘉永元年（1848）の作品。矢作川下流域の秋葉山常夜灯では最大規模である。

### 3 秋葉山に関する古文書

#### (1) 棚尾村文書No.1662

表紙 明治10年丑第一月ヨリ 秋葉山燈明錢請取之記 斎藤和一郎 控  
裏表紙 惣代 斎藤茂七組 長田半七組

#### (2) 棚尾村文書No.1663

第1冊

表紙 明治10年 秋葉山普請諸払記 丑8月  
裏表紙 棚尾村秋葉山係

第2冊

表紙 明治10年丑第一月ヨリ 金銭出入記

裏表紙 棚尾村秋葉山係

第3冊

表紙 秋葉山

裏表紙 記載なし

(3) 棚尾村文書No.1861

表紙 明治29年1月～大正5年5月 金銭出納帳

裏表紙 秋葉山世話係

※ 北秋葉社、南秋葉社、妙福寺秋葉社、宮地秋葉社の記載が有る。

※ 明治31年には南秋葉社建設のため、別に秋葉山新築係もあった。

(4) 棚尾村文書No.1947

表紙 明治29年旧暦11月ヨリ 秋葉山講金利子取立帳

裏表紙 棚尾村秋葉山係

(5) 棚尾村文書No.2216

(領収証)

御祈祷料金 金20両

右神納到候 神前ニ於テ各御家内安全火災消除御祈祷丹誠抽出テ御礼是進ジ候

秋葉寺 役寮㊦ 慶応2年寅2月4日 三河大浜棚尾信心御連中

4 碧南市内の秋葉社 一覧表

番号	地区		神社名	本社・末社の区分		場所
1	西端	西端	八劔神社		末社	半崎町3丁目68番地
2	新川	久沓	白山社		末社	久沓町1丁目5番地
3	〃	北松江	秋葉社	本社		松江町1丁目19番地
4	〃	西松江	稻荷社		末社	松江町1丁目66番地
5	〃	西松江	(常夜灯)			松江町4丁目(両半)
6	〃	東松江	神明社		末社	相生町5丁目75番地
7	〃	鶴ガ崎	山神社		末社	山神町7丁目26番地

番号	地区		神社名	本社・末社の区分		場所
8	新川	千福	斎宮社		末社	千福町3丁目3番地
9	〃	浜尾	住吉社		末社	住吉町3丁目40番地
10	〃	東山	秋葉社	本社		金山町4丁目6番地
11	〃	東山	秋葉社	本社		東山町6丁目 辻交差点
12	〃	西山	御鋏社		末社	西山町7丁目115番地
13	〃	道場山	神明社		末社	宮後町2丁目25番地
14	〃	天王	津島社		末社	天王町7丁目26番地
15	旭	荒子	神明社		末社	笹山町3丁目35番地
16	〃	荒子	(常夜灯)			笹山町6丁目
17	〃	鷺塚	天満神社		末社	鷺林町2丁目101番地
18	〃	鷺塚	(常夜灯)			鷺林町2丁目
19	〃	神有	(常夜灯)			天神町5丁目
20	〃	伏見屋	稻荷社		末社	伏見町1丁目57番地
21	〃	平七	(常夜灯)			東浦町4丁目
22	〃	稻生社	(常夜灯)			平七町2丁目
23	〃	流作	巖島社		末社	流作町1丁目6番地
24	中央	中山	神明社		末社	源氏神明町6番地
25	〃	中山神明社	(常夜灯)			源氏神明町6番地
26	大浜	大浜上区	荒神社		末社	中町1丁目62番地
27	〃	大浜中区	稻荷社		末社	浜寺町2丁目67番地
28	〃	大浜下区	秋葉社	本社		西浜町6丁目
29	〃	称名寺境内	秋葉社津島社	本社		築山町2丁目
30	棚尾	八柱神社	秋葉社	本社		弥生町3丁目133番地
31	〃	中江	秋葉社	本社		中江町1丁目 番地
32	〃	妙福寺境内	(常夜灯)			志貴町2丁目
33	〃	源氏	秋葉社	本社		源氏町5丁目
34	〃	汐田	秋葉社稲荷社	本社		汐田町3丁目
35	前浜	前浜	稲荷社		末社	前浜町1丁目75番地

## 5 秋葉山信仰

少し前まで、私たちは仕事や生活で、火を多く使っていた。また、身の回りは燃えやすい物で囲まれていたため、防火に対する願いは切実であった。

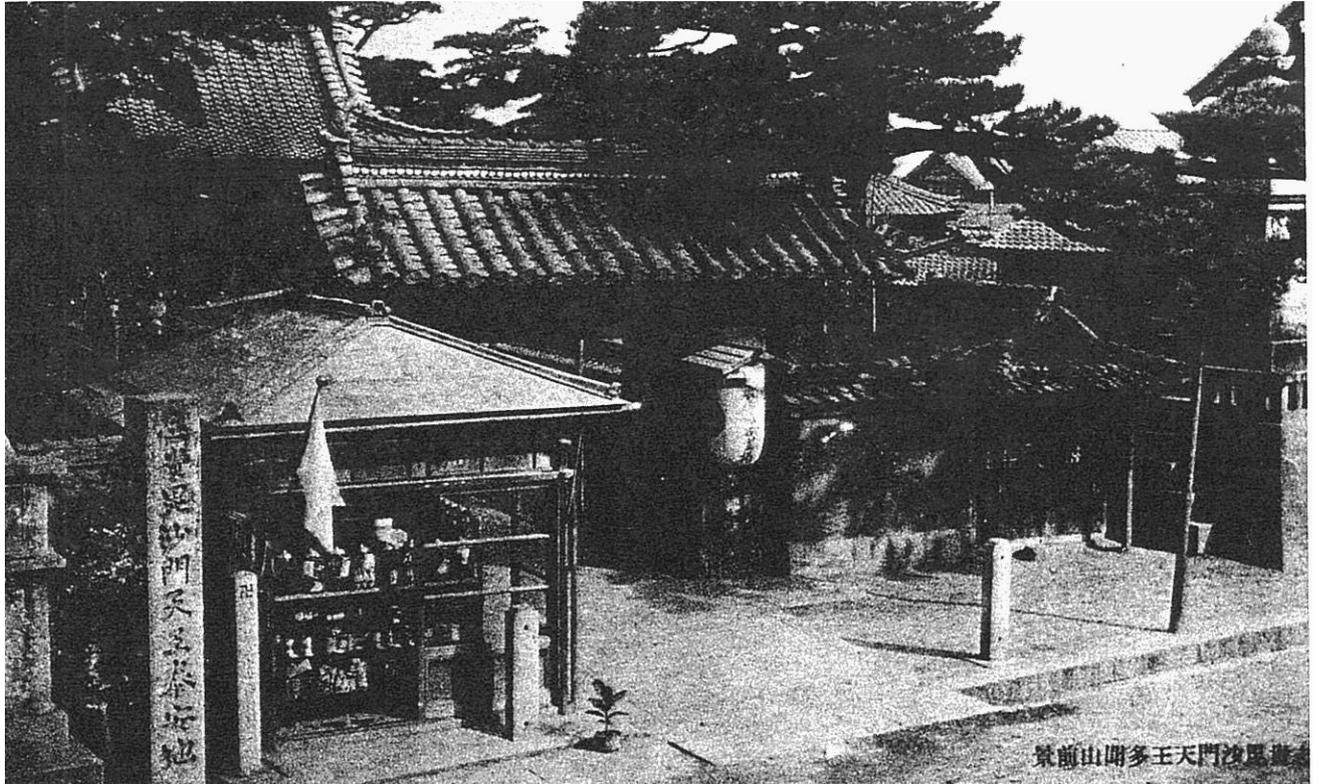
上の表からも、市内の秋葉社は瓦などの窯業や醸造業といった、火を使う業種が盛んな地区において、信仰されていることが分かる。

棚尾も人家が密集しているうえに、窯業、醸造業、鋳造業などが発達しているため、火災防止の秋葉社が厚く信仰されていたと思われる。

## 6 写真



妙福寺山門付近 大正 15 年頃の写真



出典：写真集「碧南」 編著者村瀬正章 発行昭和 55 年 (株)国書刊行会

## 「棚尾村道路元標」

### 1 要旨

道路距離の起終点を示す道路元標は、大正 8 年（1919）全国の市町村に各 1 箇所設置され、棚尾村道路元標は旧字中道 1 番地（現在の棚尾本町 2 丁目 8 番地）にあった。道路法改正で道路元標設置の規定はなくなり、多くの道路元標が道路の改修などで撤去された。棚尾村道路元標は棚尾小学校校門前の植込み内に保存されている。

### 2 道路元標とは

（インターネットより抜粋）

日本では明治 6 年（1873）12 月 20 日政府は太政官通達により各府県ごとに「里程元標」を設け、陸地の道程（みちのり）の調査を命じている。大正 8 年（1919）に旧道路法が制定され、各市町村に 1 個ずつ道路元標を設置することとされていた。設置場所は府県知事の指定となっており、ほとんどは市町村役場の前か主要な道路の交差点に設置されていた。また、市町村で指定した場合は、道路元標のある場所を起終点としていた。

現行の道路法（昭和 27 年制定）では道路元標は道路の付属物とされているだけで特段の規定はなく、道路の起終点は道路元標と無関係に定められている。道路元標は設置義務がないため、工事などで撤去された道路元標も少なくない。

一方で、昔からの集落の中心地に建てられ、旧市町村名を留めている道路元標は、歴史の生き証人と言える。近代化遺産の文化財として保護している自治体もある。

### 3 設置時の規定

(1) 愛知県の元標位置 出典：大正 9 年 2 月 17 日発行 愛知県公報第 523 号

（碧南市内分のみ抜粋）

碧海郡 旭村 大字伏見屋字上鴻島 2-2  
新川町 字新川 4-2  
大浜町 字浜家 19  
棚尾村 字中道 1

(2) 標石は省令で次のとおり定められていた。

第1条 道路元標ニハ石材其ノ他耐久性材料ヲ使用スヘシ

第2条 道路元標ハ別記様式ニ依ルヘシ

文字「何々町村道路元標」 高サ 55cm 太さ 25cm×25cm

第3条 道路元標ハ其ノ位置ヲ表示スル為道路ニ面シ最近距離ニ於テ路端ニ建設スヘシ

#### 4 近隣の道路元標

大浜町道路元標 大浜小学校正門北の植込み内 元の位置は湊橋北西袂

西尾町道路元標 西尾市本町北交差点 康全寺前ポケット広場

寺津村道路元標 寺津郵便局交差点 道路内

名古屋市道路元標 広小路本町交差点 歩道内

岡崎町道路元標 岡崎市羽根町

※ 全国の道路元標はインターネットで検索できる。

#### 5 里程元標

(1) 里程元標とは

道路元標以前には、明治6年太政官通達第413号によって里程元標が設置されていた。これは東京日本橋と京都三条橋の里程元標を日本の道路の基点として定め、そこから各府県庁所在地までの距離を計測し、府県内にあつては府県庁所在地に設置された府県里程元標を起点として、そこから各市町村里程元標までの距離を計測したものである。

(2) 棚尾村里程元標

(出典：碧南市料第51集 棚尾村史 市史編纂会)

棚尾村の位置

里程は愛知県庁より本村元標まで11里、本村元標を中心に東は幡豆郡西小榎新田元標まで19町、西は大浜村元標まで11町、南は前浜新田元標まで18町、北は西端村元標まで1里15町の位置にある。

(3) 明治時代に棚尾村に里程元標があったことが次の文書によって分る。

(照会文書)

棚尾村役場御中 名古屋塩務局半田主張所㊤

庶第 94 号 明治 40 年 1 月 20 日

棚尾村塩田マテ当村里程元標ヲ基トシテ順路里程（1 里未滿ハ町位マテ）御調上至  
急回報御煩度右及照会候也

（回答文書）

発第 61 号

本月 20 日庶第 94 号ヲ以テ御照会相成里程ノ件了承取調候処本村里程元標ヨリ塩田  
マテ 3 町

右及回報候也

明治 40 年 1 月 22 日 碧海郡棚尾村役場㊤

名古屋塩務局半田主張所御中

※ 1 町は 109m。役場から源氏橋付近の塩田までの距離は 3 町（約 300m）である。

## 6 写真

現在、棚尾小学校正門前に保存されている棚尾村道路元標

